

【①表現内容—D:表現技法】

今日は算数の授業です

「これ、花に見えない！ もうやめた。」「曲がっちゃった、嫌い！」自分の作品をこのように言う多くの子は、描く・つくることを実物に寸分違わずに模写・模造することで、正解（完璧）を表現しなくてはいけないものだと思い違いをしていることが見受けられます。

結果ばかりを求めるあまり、制作プロセス中の展開・工夫・決断は置き去りになり、これらを回避させるごとく作業を急ぎます。

すぐに私に「次はどうしたらいいの？」と、答えを解くための方程式（手順）だけを繰り返し聞いてきます。いわゆる「指示待ち受け行動」の悪い連鎖が始まります。

楽器のスケッチをする課題（鉛筆で下描きの後、ペンで一本線描き、淡彩絵の具）でのこと。「素敵な曲が聴こえてくる絵を描こう！」と、「聴くこと」を動機付けにしました。ヴァイオリンとサクソフォンを珍しそうに触り、音を出しています。満足するまで観察させた後、描き方の手順を、実際に手本として描いてみせます。

鉛筆の筆圧を抜いてやさしく、薄く薄く線を重ねるようにして構図のとり方を説明します。そうすれば理想の線を見つけられることを伝えるのですが、私の助言もソコソコで、2B鉛筆を強い筆圧で一本線をグイグイと、しかも全体の構図を探すこともなく、楽器の頭部から下へ向かって一気に描き進めます（幼少学年児はともかくとして）。

実物に関心が薄く、自分の記憶やイメージだけで描くため、結果は見えています。画用紙の隅に小さな、しかも極端に歪曲したものが描かれ、それを消しては描いての繰り返しをして、濃い消し跡だけが残ります。こうなるとだれでも嫌になるものです。

最初に薄い線で描くと、どんないいことがあるのか。

- ・たとえ、その線が気に入らなくても気にせず、となりへ何度も線を描き足したり、延ばしたりできる。
- ・消す時間が不要になるので、勢いを持続できる。
- ・腕、手首が柔らかく動かせるので、線がのびのびしている。
- ・まちがいを心配しなくてもいいので、勇気をもって取り組める。

それでもこの子たちには描くことに違いはないわけで、一度ついた苦手意識は小さな成功体験を繰り返し、乗り越えさせなくては喝破できないものになってしまいます。

そこで「声かけ」が大切になります。「今日は絵を描かなくてもいいかも！ ①体育の体操をします、②理科の実験をします、③算数の計算をします。」

戸惑いの顔もおかまいなく、画用紙に鉛筆を走らせてみせます。

- ①一流アスリートは運動の前には十分に身体を柔らかくする体操をします。だから安心して、勇気を出して全力で前に進めるのです。

みんなも鉛筆は柔らかく持ってゆっくり描いてみよう。

- ②ノーベル賞受賞の科学者は100回の実験から、ひとつの小さな成

功を根気よく探し出し
ているのです。みんな
も 100 本の薄い線を描
いて、その中からこれ
だと思う 1 本の線を探
し出そう。

③算数問題の正解を出す
には足し算や引き算、
掛け算、どれを使えば
よいのかをじっくり考
えます。絵を描くこと
も同じです。線を足し
たり引いたり、色の濃
淡を並び替えたりして
完成を見つけよう。

「ヴァイオリンの肩は
どこ？ 腰は？ じゃあ顔
は？ どこから声を出す
のだろうね。」

そんな声かけで子どもたちが乗ってきます。その素直さに私が助
けられていることも事実です。「ひげ先生！ ④給食の時間はない
の？」

しんかいけいぞう
(新海敬造：名古屋市 子ども造形教室ダ・ヴィンチ講師)



小学2年生（制作途中）